マックス・E・アマンの

世界馬術界展望

Max E. Ammann's Vista of World Equestrian Sports vol.04

マックス・E・アマン氏は政治ジャーナリストから馬術界に転身し、
障害飛越のワールドカップを創始しオーガナイズするなど馬術界に多大な貢献をしてきた人物だ。
そのアマン氏が、世界の馬術界の過去から現在までの話題を縦横に語る。

アメリカ大陸最大のスポーツイベント パンアメリカン競技大会

パンアメリカン競技大会（パンナム・ゲームズ）がはじめて開催されたのは1951年のことだ。以来、これは南北のアメリカ大陸における最大のスポーツ・イベントとなっている。この大会は4年毎、夏季オリンピックの前年、オリンピックが偶数年なので必然的に奇数年に開催される。陸上や水泳などのメジャーな競技とともに馬術の3競技に加え、今世紀に入ってからはエンデュランスも競われるようになった。

2010年10月、第16回のパンナム・ゲームズがメキシコのグアダラハラで開かれた。このパンナム・ゲームズの中で馬術競技に関していえば、FEIでもっとも古い大会であり、米国、カナダ、ブラジルという国際的な馬術大国が参加しているにも関わらず、ヨーロッパでも日本でもその存在はほとんど知られていない。

パンナム・ゲームズの創設にあたり注目すべきことが2点ある。ひとつは1930年代、FEIが未だ世界規模の、いや大陸規模の大会でさえ開催していなかった頃に、南北アメリカ大陸では南部中部北部が集う大規模な大会を企図していたことだ。もうひとつは51年にその大会が現実のものとなったとき、FEIの協力をほとんど仰ぐことなく実現させたことだ。もちろんFEIの定めた規約とルールに則って大会は開催された。しかし、各国のオリンピック委員会が協同して大会組織を作り上げたのだ。

1959年、米国シカゴで開催されたパンナム・ゲームズでの障害個人の表彰式。左から銅メダルのノーマン・エルダー（カナダ）、金メダルのマイケル・ページ（米国）、銀メダルのマイケル・プラム（米国）。

最初のパンアメリカン競技大会が51年だったことには第二次世界大戦が少なからず影響している。43年に行われたパンナム・ゲームズの会議で戦争が終わったならすぐに第1回大会開催のための準備を行うという決議がなされた。パンナム・ゲームズをオリンピック前年に行うことを決めた時点で48年のロンドンオリンピック前年の47年に開催するためには準備の時間が少なすぎ、実現は不可能だった。そこで、第1回大会は52年のヘルシンキオリンピックの前年、51年に開かれたのだ。

パンアメリカン競技大会始まる

第1回はアルゼンチンの首都、ブエノスアイレスで開催され、22カ国が参加した。この頃、アルゼンチンの大統領官邸に暮らしていたのはファン・ペロンと魅惑的なファーストレディ、エヴァ、この世界を魅了したドリームカップルの存在が同大会の成功に大きく寄与した。

ブエノスアイレスの馬術競技に馬と選手を送りこんだのは4カ国のみ。南アメリカのビッグスリーであるアルゼンチン、ブラジル、チリ、そしてメキシコだ。このメキシコで55年の第2回大会が開かれることになる。ちなみにこの3年前の48年のロンドンオリンピックにおいてメキシコは障害飛越で団体優勝している強豪だ。

ブエノスアイレス大会に米国選手は出場しなかった。48年以降、米軍は馬を抱えることを止めた。そこで、50年に市民が米国馬術チーム（USET）を組織した。当初はトレーニング施設もなく（有名なグラッドストーンセンターは62年に開設された）、必要な資金の募集も始まったばかりでUSETがブエノスアイレスにチームを送る組織を作ることも資金を提供することもできなかったのだ。

障害飛越競技

パンアメリカン競技大会の最初の障害飛越チャンピオンに輝いたのはチリのアルベルト・ララギベルだった。彼は2年前にファソに乗り、障害の高跳びで2・47

67年、ブラジル大会の障害団体の表彰式。ネルソン・ペソアを含むブラジルチームが優勝。銀メダルは米国、銅メダルはカナダにもたらされた。

text: Max E. Ammann design: Dynamite Brothers Syndicate

メートルという世界記録を作っている。興味深いことに、当時のチリはドレッサージュにおいて国際的にも知られる実力を持ち、かたやアルゼンチンは総合馬術で一目置かれる存在だった。55年のメキシコ大会では、障害の2つの金メダルをメキシコがさらった。若きロベルト・ヴァナルズが個人を、48年のオリンピックチャンピオンであるウンベルト・マリレスが率いるチームが団体を制した。

59年にパンナム・ゲームズが初めて米国で開催された。開催地はシカゴだった。USETのドリームチーム、ビル・スティンクラウス、ジョージ・モリス、ヒュー・ウィリー、そしてフランク・チャポットが障害団体の金メダルを獲得した。米国は63年のサンパウロでも引退したモリスとウィリーに代わりキャッシィー・クスナーとメリー・メアーズが出場し金メダルを獲得している。67年のブラジル大会では当時障害で世界を席巻していた米国を下しブラジルのネルソン・ペソアが勝利した。71年にはコロンビアのカリで開催され、カナダが団体の金メダルを獲得した。それ以降、米国、カナダ、ブラジルの3カ国のいずれかが団体での優勝を遂げている。59年から2011年までに米国に7つ、ブラジルに5つ、そしてカナダに2つの金メダルがもたらされた。中でも1991年、95年、99年とブラジルが3連続して勝利したことは特筆に値する。個人においては米国が最多のメダルを獲得してきた。中でも駿馬、ジェットランについて触れずに置くわけにいかない。75年に本来のライダー、フェルナンド・センデロスが騎乗し、79年にはマイケル・マッツが騎乗して2連覇したのだ。

2011年、グアダラハラ大会での障害団体で優勝したアメリカチーム。
©StockImageServices.com/FEI

馬場馬術競技

ドレッサージュについては米国とカナダが個人とチームで交互に金メダルを獲得している。これが破られたのはメキシコが95年に個人、団体とも勝利したときのみだ。79年までパンナム・ゲームズのドレッサージュはグランプリレベルで実施されていた。ただし、出場したのは最少6人、最大で13人だった。そこで、団体戦でセントジョージ賞典、団体決勝でインターミディエイト1を採用することにした。これは望んだ通りの結果をもたらした。予選で40人以上の参加者が出場するようになったのだ。ただ、おかしなことにオリンピックではグランプリレベルを要求されるのに、このセントジョージ賞典レベルの結果によってオリンピック出場が決められている。ちなみにグアダラハラ大会では銀メダル、銅メダルを獲得したカナダとコロンビアがそれぞれオリンピック出場権を獲得した。

総合馬術競技

総合の選手はこれまでに数度、組織委員会が3日間の競技を実施することができないという悲運を味わっている。79年のプエルトリコと83年のベネズエラでは総合競技が実施されず、91年のキューバ、2003年のドミニカ共和国の時は実施国でなく代わりにアメリカで行われた。この競技の優勝者には世界的に名の知れた選手が連なっている。マイケル・ページとグラスホッパー号が1959年と63年、マイケル・プラムが67年、デッド・コフィンが75年、ブルース・デイヴィッドソンが95年、カレン・オコーナーが2007年の優勝者。全員米国人選手だ。

11年に、グアダラハラで開催されたパンナム・ゲームズでアメリカは6つの金メダルのうち5つを獲得した。障害個人クリスティーン・マックレアと団体、ドレッサージュ個人ステファン・ペーターと団体、そして総合団体だ。パヴァロッティに乗ったジェシカ・フェニックスがからくも総合個人でカナダに米国以外で唯一の金メダルをもたらした。

上：グアダラハラ大会のドレッサージュで個人優勝のステファン・ピーター選手。
下：唯一米国以外で金メダルを獲得した総合馬術の個人、ジェシカ・フェニックス選手。
©StockImageServices.com/FEI

マックス・E・アマン
1938年、スイス生まれ。1964年に渡米しニューヨークの国連本部詰め外国人特派員として主に政治関係のジャーナリストとして活躍。69年に『スイス・アメリカン・レビュー』紙の編集長に就任。73年にスイスに帰国し、『ルツェルン新聞』に編集長として迎えられる。そのかたわら、馬術競技観戦が趣味だったことから馬術関連の記事も手掛け、翌74年に国際馬術ジャーナリスト連盟（IAEJ）の会長に就任。78年新聞社を退社、以降、馬術のさまざま大会でディレクターを務めるなど、多大な貢献をしてきた。